

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般財団法人 能楽堂嘉祥閣
公演団体名	一般財団法人 能楽堂嘉祥閣

内容
<p>1. 能の話：子供達に能楽について知ってもらう為、能について歴史も含めて簡単に話をします。</p> <p>2. コミック版「鶴（ぬえ）」解説：本公演で実演する能「鶴」のあらすじをコミカライズし子供用に編集したプリントを配布し、使われている難しい言葉を説明しながら皆に読んでもらう。普通にあらすじを配るよりも理解が増し、より親しみやすくなります。</p> <p>3. 謡体験「鶴」：本公演時に実演される能「鶴」の謡の一部を稽古して覚えてもらう。</p> <p>4. 舞体験：自作の扇を持ち ①扇の開け方・閉め方、②構えを覚えてもらい③能の歩き方である“すり足”を覚えてもらう。④全員に本公演で行う型を稽古して覚えてもらう。</p> <p>5. 扇の作製：白紙の扇を全員に配布し、色鉛筆やクレヨンなどで線画の太陽や波に色を塗り、余白に自分の名前を書いてもらう。 ※本公演までに鶴を想像、または調べてもらい、各自扇に鶴の絵を描いてもらう。 ※本公演までに優秀作を先生方に選んでおいてもらい、本公演時に全員の前で発表する。</p>

タイムスケジュール（標準）
例) 会場到着 12:00 仕込み 12:30-13:30 ワークショップ 13:30-15:05 内休憩 5分 撤去 15:05-16:00 会場退出 16:00

派遣者数
2名

学校における事前指導
特に必要なし

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	一般財団法人 能楽堂嘉祥閣
公演団体名	一般財団法人 能楽堂嘉祥閣

演目
能「鶴」と狂言「柿山伏」
[1部] 1. 始まりのご挨拶と話 7分
2. 狂言「柿山伏」実演 15分
3. 囃子「獅子」実演 3分
4. 囃子のリズムに合わせて校歌斉唱 2分
5. 囃子の説明 9分
6. 小鼓体験 6分
7. 狂言「三番三（さんばそう）」実演 3分
～休憩 5分～（学校の休憩時間にあわせて）
[2部] 8. 舞発表 3分
9. 話 3分
10. 能「鶴」実演 34分
11. 終わりのご挨拶 5分（公演時間：休憩時間を含め計95分）

派遣者数
16名（出演者のみ）

タイムスケジュール（標準）
例）会場到着 12:00
仕込み 12:30-13:30
本公演 13:30-15:05
内休憩 5分
撤去 15:05-16:00
会場退出 16:00

実施校への協力依頼人員
特には必要ありませんが、WS 来訪時に必要と判断すれば協力を依頼させていただきます。

演目解説

1. 始まりのご挨拶：日本人が何千年もの間大切にしてきた儒教・孔子の教えに基づき、「礼に始まり礼に終わる」を実践する意味で、まずは挨拶より始めます。
その後、扇の最後の仕上げ（紙を折る）を全員で行い、学校側に選んでもらった扇の優秀作の発表を行います。
さらに、後の実演のイメージがわきやすいよう、狂言の実演演目である「柿山伏」の話をしします。
2. 狂言「柿山伏」の実演：[あらすじ]修行を終えて故郷に帰る山伏は、空腹のあまり途中にある柿の木に登って実を食べます。それを見つけ腹を立てた柿の木の持ち主は、山伏をからかい、それにより山伏は柿の木から飛び降りることになってしまいます。体を痛めた山伏が今度は腹を立て、看病せよと祈り、逆襲に出ます。そして…。
3. 囃子「獅子」実演：能楽の中で一番といってもいいほど迫力のある「獅子」を実演し、その前に実演した狂言とはまた違った雰囲気を感じていただく。
4. 校歌：日本人は何千年に渡り、七五調の言葉を美しい詞としてきました。学校の校歌も七五調を重んじて作られている学校が多いです。その学校の校歌に囃子を入れて行う事により、七五調を理解してもらい、日本語の持つ美しさに気付いてもらおうと思います。
また子供たち全員に歌ってもらい、そのリズムに合わせて囃子を行うことで、囃子に親近感を持ってもらいます。
5. 囃子の説明：能楽の中で使用する楽器“囃子”。笛・小鼓・大鼓・太鼓についてどのような素材が使われ、どのような仕組みなのか、またその使用方法や演奏方法、それぞれの特徴などについて説明します。
6. 小鼓体験 児童・生徒全員に“エア－小鼓”にて、小鼓の構え方、打ち方を教え、演奏の真似を行ってもらいます。
7. 狂言「三番三」実演 先の“6. 小鼓体験”を児童・生徒全員で行いつつ、他の囃子も加わり、狂言「三番三」の一部を紋付袴姿で実際に演じます。児童一人一人が演者の一員となり、全員で鼓を打っている中、他の囃子も加わり、狂言「三番三」を演じる事により、狂言や囃子をより身近に感じてもらい親しんでいただきます。
8. 舞発表 代表者数名は舞台上に上がってもらい、他の児童・生徒は自分の場所で、WSの時に行った舞体験を再び行ってもらう。また、WSで稽古した謡尾全員で謡う。
9. 話：WSで既にあらすじのコミック版を配り解説を行っていますが、再度児童・生徒達に能「鶴」について興味を持ってもらう為、話をしします。
10. 能「鶴」実演：[あらすじ]三熊野に参詣した僧（ワキ）が、都に上がる途中、蘆屋の里にて一夜を明かしていると、うつほ舟に乗った者（前シテ）が現れたので、名を訪ねると、頼政の矢先にかかって死んだ鶴の亡魂と答え、その時の事を語り、弔いを乞い、

消え失せる。一中入一僧が読経していると、鶴（後シテ）が現れ、頼政に退治された事を語り、なお回向を乞い、消え失せる。

※舞台上で実際に演者が謡う台詞を書いた“詞章”を、実演時に資料として配布します。行う演目の詞章は、通常流儀によって言葉が変わります。例えば、観世流ですと、ワキ方・狂言方は流儀が違うので、詞章を見ても実際に演じる時には多少言葉が違うという問題が起こるのですが、今回資料として配布する詞章は、すべての台詞をそれぞれの流儀の言葉に直して作成してあるため、詞章を観ながら舞台をみる児童・生徒達が、その時どのシーンを演じているのか理解しやすく、現代劇により近い感覚で楽しみながらご覧いただく事ができます。

11. 終わりのご挨拶：公演の最後に児童・生徒達の感想を聞き、質問に答える時間を設け、終演とします。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- ・囃子のリズムに合わせて校歌斉唱（全員）
- ・小鼓体験（全員）
- ・狂言「三番三」実演時の小鼓（全員）
- ・舞発表（全員）
- ・舞発表時の謡（全員）
…ワークショップ時に稽古した謡を覚えてもらい、皆様にお配りした扇を持って、舞の発表時には実際に演者と一緒に謡い、舞う。
- ・能「鶴」実演時の謡（全員）

児童生徒とのふれあい

児童生徒にはWS時に稽古した謡を公演までに覚えてもらい、自分自身が色を塗り、絵を描いた扇を持って、実演時には実際に演者と一緒に謡ってもらいます。こうすることで、一部の人だけではなく、全員が体験・共演・参加する事の出来る形態で公演を行い、能楽に触れて、より身近なものとして感じてもらい楽しんでもらうことが期待できます。それ以外にも、囃子体験や舞の練習・発表など、児童生徒全員が、演者たちとふれあいながら実際に能楽を体験することができるプログラムを多く取り入れています。